

047 楽器の奏法による分類

表47-1 楽器の奏法による分類 (Original data)

分類	奏法	演奏のしかた	楽器の例
叩く	膜を叩く	動物の皮やプラスチックの膜を手やばちで叩く	すべてのドラム(太鼓)、ティンパニ、ティンパレス、コンガ、ボンゴ、タンバリン、ジャンベ、ジュンジュン、バタ、パンデイロ、スルド、つづみ(鼓)
	木を叩く	木製の音板をマレットやばちで叩く	マリンバ、シロフォン、クラベス、拍子木、木魚、カスタネット、カホン
	金属を叩く	金属製の音板をマレットやばちで叩く	グロックンシュピール、メタロフォン、ヴィブラフォン、チェレスタ、トライアングル、シンバル、カウベル、アゴゴ
	弦を叩く	弦をフェルト製ハンマーやマレットや指で叩く	ピアノ、チェンバロ、ハープシコード、楊琴、ダルシマー、チョッパーベース、スラップベース
	手を叩く	手を叩く	拍手、ハンドクラップ
	振る	球に粒を入れて振る	マラカス、シェケレ、シェイカー
弾く (はじく)	弦を弾く	金属弦やナイロン弦を指、ピック、プレクトラム、ばちで弾く	ギター、ベースギター、リュート、ハープ、チター、クラヴィコード、ウクレレ、ウッドベース、ヴァイオリンのピッチカート、マンドリン、バンジョー、箏、三味線、琵琶、シタール
擦る	弦を擦る	金属弦やナイロン弦を弓で擦る	ヴァイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバス、ヴァイオリン、ハーディ・ガーディ、胡弓、胡琴、二胡
	膜を擦る	膜や皮を手で擦る	パンデイロ、コンガ(特殊な奏法)
	木を擦る	木製の棒や筒、中空の球を擦る	クイーカ、カバサ、シェケレ、キハーダ、ギロ
吹く	シングルリード	1枚のリードを吹いて振るわせる	サクソフーン、クラリネット
	ダブルリード	2枚のリードを吹いて振るわせる	オーボエ、ファゴット
	エアリード	空気を振るわせる	フルート、リコーダー、オカリナ、ホイッスル、口笛、尺八、パイプオルガン
	フリーリード	自由に動くリードに空気を送って振るわせる	ハーモニカ、アコーディオン、リードオルガン、箏、バンドネオン
	リップリード	唇を振るわせる	トランペット、ホルン、トロンボーン、チューバ、コルネット、フリューゲルホルン、ユーフォニアム
	声	声帯を震わせる	声楽、歌、コーラス

楽器の分類法は、046 に示したような様々な方法があります。みなさんは、どの分類法に馴染みがあるでしょうか。もちろんこれらは直感的に捉えやすくて分かりやすい便利な分類法です。しかしもう一つ、大切な分類法があります。「楽器の奏法による分類」です。これを理解することをみなさんにお薦めします。その理由は、奏法による分類を覚えることで、その楽器の音響的な特徴をより理解しやすくなるからです。

たとえばコントラバスという楽器は、クラシック音楽のシーンではヴァイオリンと同じように弦を弓で擦^{こす}って音を出すので、ヴァイオリンを低くしたような音です。しかしジャズではウッドベースとして使われ、弦を指で弾^{はじ}いて音を出します。そのためギターを低くしたような音になり、音の印象はかなり変わります。さらにロカビリーではスラップという奏法によって、手を弦に叩きつけて音を出すことがあります。こうなると、もはや打楽器に近い状態です。しかし、これらは全く同じ楽器から出る音です。つまり楽器そのものによって音が決まるというより、その楽器をどう演奏したかによって、音が特徴づけられるのです。

叩けば叩いた音が、弾けば弾いた音が、擦れば擦った音が、吹けば吹いた音が出る、ということです。

「叩く楽器」は、あらゆるものを叩きます。叩いた時に出る打撃音は音の立ち上がりが鋭く、一瞬のピークが際立っているので、タイトなリズムを刻むことができます。反面、音が出ている時間をコントロールすることが難しいので、音価を正確に表現することが苦手です。しかしピアノのように長くて太い弦を叩くことによって音を持続できる楽器もあります。

「弾く楽器」は、通常、弦を弾^{はじ}きます。音の立ち上がりが鋭いところは叩く楽器と似ていますが、弦はその振動を長続きさせることが容易なので、叩く楽器より正確な音価を表現しやすくなります。

「擦る楽器」にもっとも多いのは弦を擦^{こす}る楽器です。弦を擦り続けることで音価を自由にコントロールできますが、音の立ち上がりが甘くなるので、リズムよりメロディ、ハーモニー表現の得意な楽器が多くなります。また、擦り続けることで音を出し続けることができますが、その間の周波数成分(音色)にあまり変化が出ないので、音が単調になる傾向があります。そのため、ヴィブラートなどによって音に変化をつけることが必要になります。

「吹く楽器」の音の特徴は、擦る楽器とよく似ています。吹いて振動させるものは、薄い板(リード)、唇(リップリード)、空気(エアリード)、声帯など様々です。その音色や音の印象も多様で、楽器の形状も大きく異なります。しかし、外見の違いとは裏腹に、これらの楽器の「音の出かた」や「音の消えかた」は、意外なほど、よく似ています。(054 参照)